

桜並木

題字：久松 和枝様

グループホーム・新港 入居者様



祝敬老会

2018
cosmos-garden

私たちは年度当初年間行事計画を立てています（どちらの事業所でもされているように・・・）。毎年9月に開催となるのが、そう「敬老会」です。以前は9月15日が敬老の日だったのですが、いわゆるハッピーマンデー制度の実施によって平成15年からは9月の第3月曜日に移動し、今年も9月17日。当法人内の各事業所でも**敬老会**を開催。ご家族様とご一緒に食事会を開いたり、この日のために汗と涙を流し（?）、秘かに練習を重ねた出し物を披露したりと・・・。様々な方法でご利用者様への労りと感謝の気持ちを伝えさせていただきました。食事会を開く・贈り物をする・家事を手伝うなど、気持ちを伝える方法は様々あるかと思えます。皆様はどのような方法で感謝の気持ちを伝えましたか？あらら、照れくさくてしていない？ならば、今からでも是非！

桜並木

第43号
平成30年10月



医療法人
秋桜会

〒851-2211
長崎市京泊3丁目30番3号
TEL 095-850-6866
FAX 095-850-4888
WEB www.cosmos-garden.com

facebook もご覧ください

公式サイトへ
QRコードで
簡単アクセス



cosmos-garden

介護について伝えることが できたでしょうか？

学校の先生になるには、教員免許の取得が必要です。小学校・中学校の教員免許を取得する場合、教育実習だけでなく「**介護等体験**」も必須となっています。

また、三重中学校の2年生は毎年「**職場体験**」に取り組み、地域の様々な職場にて3日間の体験学習を実施されています。

9月にデイサービス・コスモスでは「**介護等体験**」の学生様を2名、また「**職場体験**」についてはグループホームコスモス1及2にて2名、コスモスガーデン桜の里で3名の生徒様にお越しいただきました。



職場体験

高齢者の生活支援を行う介護というお仕事は、まずはコミュニケーションから。どなたも初日は緊張気味の表情でしたが、時間が経つにつれ少し笑顔も見られるように。そう、**その笑顔が大切**です！

普段の何気なく業務に取り組む私たちにとってもこうした実習受け入れは大きな刺激になります。これからもご利用者様の笑顔が見られるようにがんばっていきたいと思います。

介護等体験・職場体験

デイサービス・コスモス
グループホームコスモス1及び2
コスモスガーデン桜の里



介護等体験

フルートを
演奏していただきました♪

若い易く学成り難し、 一寸の光陰軽んずべからず

少子高齢化が進む日本。認知症患者数が増加していることもご存知かと思います。厚生労働省が発表した推計によると、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占める見込みです。

今後高齢化がさらに進んでいくにつれ、認知症の患者数がさらに膨らんでいくことは確実な状況です。私たち介護に携わる者にとって「**認知症の理解とかかわり方**」は学んでおかなければならない必須の知識です。

今回、**長崎県認知症介護指導者**である職員が講師となり、法人内の全事業所職員を対象にした**認知症介護の研修会**を開催しました。研修を通して認知症という「病気」を理解することはもちろんですが、その病気を抱えている「**人**」を**理解する視点**が大切であることを学びました。あとは『驚かせない・急がせない・自尊心を傷つけない』という基本姿勢を日々実践するのみです。

今後も職員一人ひとりのスキルアップにつながる研修会を企画していきます。

認知症介護の研修会

法人内 全体研修



グループホームのある日

「**そうめん流し**」は水を使うので、普通は屋外でするものです。クルクル水が回っている器具にそうめんを流し、店内で食べる飲食店もあるようですが、そんな器具を持っていないので昔ながらのやり方で楽しんでみよう！と企画しました。

廊下にそうめんを流す台を準備。入居者の皆様にも一列に並んでいただいたら、スタート！スタッフが「流しますよ～いいですか～？」と声をかけると、「おっ！きたきた～、ヨイショ！」と箸を使って見事そうめんをキャッチ！麺つゆにくぐらせ、「ずッ ずッ ず～」とすすります。

「美味かね～」と喜びの声をいただき、安堵の表情を浮かべた職員ですが、流した水を受けるために設置したバケツがすぐに満杯に…慌てて水を捨てに走る職員でした。

室内でそうめん流しやってみた

グループホームコスモス1



打ち上げ花火ドコから見るか？

グループホーム・新港

今年の夏は猛暑・酷暑を乗り越しての記録的な暑さでしたね。皆さんは夏バテしませんでしたか？

グループホーム・新港では、今年もまた夏の終わりを感ずる8月25日、**三重地区みなと祭り花火大会**の見物に入居者の皆様とお出かけしてきました。



毎年のことなのですが、近隣施設のご協力を得て、施設の庭先をお借りしての見学。3ユニット合同で、普段ならそろそろ就寝準備をする時間帯の午後8時から外出。この日ばかりはまだまだ寝るわけにはいきません。暑さ対策として持参したアイスを頬張りながら、目の前に上がる花火の光と音を楽しみました。

「もう1つアイスをくれんね～」と、2つ食べる入居者様もいらっしゃいましたが、職員はお腹を壊さないか心配ばかりしていました…。

連載小説

「僕の暗い青春」

作者：井下長治

※このお話は、フィクション？です

前回までのあらすじ 杉尾君に誘われ柔道を始めたボク。はじめて 3 か月で迎えた昇段試験で、自分よりも明らかに技能に優れた杉尾君が不合格したにもかかわらず、ボクはヘンテコ技の特訓が功を奏し、かろうじて合格。表情がほころびそうになる半面、少し気の毒に思うボクであった。

▼明日は中学最後の運動会という日の夜、ボクの家にはいつものき一坊、戸栗君それにクボケンが集まっている。3 年生男子の花形競技である棒倒しにおいて誰をヒーロー候補として応援するか相談していたが、ヒーローになりたがりばかりの集まりで、やむを得ずあみだくじとなった。くじやじゃんけんなど実力を伴わない運だけの勝負になると、不思議といつもき一坊が勝ち残る。今回も多分に洩れずき一坊が勝者となった。棒倒しとは紅白戦で各々が直径約 15 cm 長さ 4 m の丸太を中心に立てて守り、攻撃隊は敵の守備隊を乗り越え丸太の先端を掴み、これを引き倒せば勝ちとなるゲームである。き一坊をヒーローにするために、ボクらは残り 3 人で敵の守備隊の頭上に彼を飛び上がらせなければならない。作戦会議は深夜に及んだ。運動神経は群を抜いてからっきしのき一坊である。どんなに卓越した作戦を提案しても、最後は彼の「そいはちょっと無理ばい。」の一言で不採用となった。時間ばかりが過ぎてゆく。結局は 3 人で騎馬を作りき一坊を乗せ敵陣に近づき守備隊の頭上に移すという、陳腐というか無難な作戦になってしまった。ヒーロー候補のき一坊だけが喜々とした表情を浮かべ、他の 3 人は一様にげんなりした面持ちで互いに見やった。明日のヒーロー候補が用足しに立った直後クボケンが口火を切る。「アイは騎馬に乗ったっちゃ、多分馬から飛び移りきらんやろう、立ちもきらんかもしれんぞ。」ボクらも同じ思っていた。失敗することがほぼ間違いないことに労力を割く虚しさでうなだれる少年たち。「二人を～夕闇が～つつむ～この窓辺に～」とても同じ歌とは思えないほどに編曲された『君といつまでも』を口ずさみながら戻って来たき一坊。「何ばそげんしょぼくれととや、たま～にゃオイが目立ったっちゃ、ばちゃーかぶらんやろうが。」根拠のない自信に満ちた彼の顔を見るにつけ、ボクらの思いを口にするとはとても出来ない。奇跡を願いながら散会となった。▼少し肌寒いくらいの朝だった。見上げると青く澄み渡った空の端っこに縹雲が遠慮がちに浮かんでいるだけである。「こりゃよか運動会日和ばい」そう呟きながら玄関前の階段でボクはき一坊を待っていた。恐らく『君といつまでも』ではないかと思える口笛の音が聞こえてくる。メロディーだけでは何の曲か断言できないが、演者がき一坊であることから曲名が推測できた。「早かね～。」ボクが言うと「そうかな～、戸栗たちは？」き一坊は少しでも早く学校へ行きたそうにみえた。「ヒーローはそげんあせがんな。みたむなかぞ。」「ば～かが、そげんとじゃなかって。」柄になく照れる姿を見ていると、どうにかして彼を今日のヒーローにしてやりたいと思える。ほどなく残る二人も到着し、揃いのジャージにお弁当入りナップサックを肩にかけ学校へと向かった。国旗掲揚に始まり国歌斉唱、校歌斉唱、校長訓話と儀式は続き生徒代表の宣誓が終わるや、運動会ソング定番、天国と地獄がけたたましく唸り声をあげる。一学年で約 600 人、全校で 1800 人余の行事であり、徒競走だけでもそれなりの時間が経過する。組み体操や女子のリズム体操が終わると午前の部が終了し、昼休みを終えたら遂に棒倒し競技である。3 年男子が紅白に分かれ、それがまた攻撃班と防御班に分かれた。き一坊分隊は紅組攻撃隊に入り号砲一発、一斉に敵陣の柱をめざす。7～80 人が固める陣に 100 人ほどの群れが襲い掛かるのだから、それこそ蜂の巣をつついた様な大騒ぎとなった。馬の背役のボクが両の腕を後ろに伸ばし、両脚役のクボケン達は外側の手でボクの手を握り、内側の手をボクの肩に置き騎馬を作る。その馬にまたがりき一坊は敵陣めざした。(つづく)